

Sister Mary Joseph's Nodule が 膵癌診断の契機となった 1 例

佐々木 優[†] 吉田 哲也 矢野優美子 山本紗規子
深田 彩子 藤山 洋一* 西村百合香** 佐藤 友隆

IRYO Vol. 68 No. 12 (621-625) 2014

要 旨

症例は83歳，女性．2カ月前から自覚する臍部結節を主訴に近医皮膚科の紹介で当科（東京医療センター皮膚科）を受診した．皮膚生検と全身検索により膵体部癌の臍転移による Sister Mary Joseph's nodule (SMJN) と診断した．ゲムシタビンによる化学療法を開始したが全身状態増悪により中断となり，皮疹出現から約6カ月後に永眠した．SMJN は一般に予後不良の兆候とされるが，特徴的な所見を見逃さずに迅速に治療方針を立てる必要がある．

キーワード Sister Mary Joseph's nodule, 臍転移, 膵癌

症 例

【症例】83歳，女性．

【主訴】臍部結節．

【家族歴】母：胃癌．

【既往歴】特記すべき事項なし．

【現病歴】2カ月前より臍部の滲出液をとまなう結節を認め徐々に増大し，疼痛も出現したため近医皮膚科を受診した．抗菌薬を内服したが改善せず，2週間後に当科を紹介受診した．

【身体所見】臍部左側に16mm大の弾性硬の紅色結節を認め，その外側に7mm大の弾性硬の小結節を認めた（図1）．

【血液生化学検査所見】Hb7.0g/dl と貧血を認めた．腫瘍マーカーは，CA125 289.2U/ml（正常値35U/

ml未満），CA19-9 214950.00U/ml（正常値37U/ml未満），CEA312.4ng/ml（正常値5U/ml未満）と上昇を認めた．

【FDG-PET/CT 検査所見】臍部皮下に集積亢進を呈する結節を認めた（図2a）．また膵体部に6cm大の不整な腫瘍性病変を認め，SUV max 約7.0の異常集積を呈した（図2b）．その他に肝腹側の腹膜播種，腹腔内の腫大リンパ節，右副腎結節にも集積亢進を認めた．

【病理組織学的所見】弱拡大では皮下組織から真皮にかけて腫瘍細胞が増殖し，腺腔構造の形成を認めた（図3a）．強拡大では核縁不整で明瞭な核小体を有する中型核と，弱好酸性で粘液質な胞体を有する管状腺癌がみられた．浸潤性膵管癌の転移として矛盾しないと考えられた（図3b）．

国立病院機構東京医療センター 皮膚科，*同消化器内科，**ゆうてんじ皮膚科 †医師
別刷請求先：佐藤友隆 国立病院機構東京医療センター 皮膚科 〒152-8902 東京都目黒区東ヶ丘2-5-1
e-mail：ZXG03117@nifty.ne.jp

（平成26年3月24日受付，平成26年7月11日受理）

Sister Mary Joseph's Nodule as a Presenting Sign of Pancreatic Cancer Diagnosis

Yu Sasaki, Tetsuya Yoshida, Yumiko Yano, Sakiko Yamamoto, Ayako Fukada, Yoichi Fujiyama*, Yurika Nishimura** and Tomotaka Sato, Department of Dermatology and *Digestive organ internal medicine, NHO Tokyo Medical Center, **Yutenji Dermatology

（Received Mar. 24, 2014, Accepted Jul. 11, 2014）

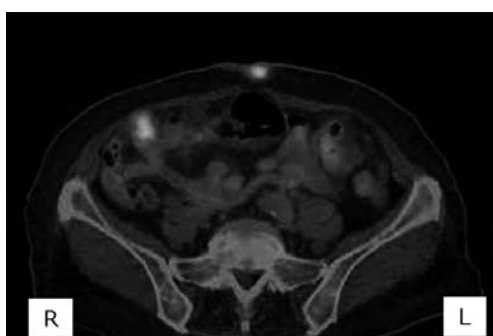
Key Words: Sister Mary Joseph's nodule, umbilical metastasis, pancreatic cancer



図1 初診時臨床像

初診時、臍部左側に16mm大の紅色結節を認め、その外側に7mm大の小結節を認めた。

a



b

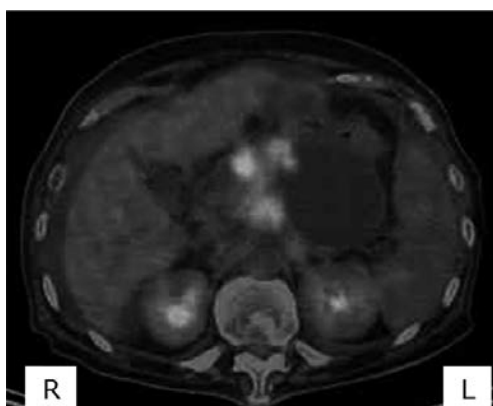


図2 FDG-PET/CT 検査所見

a: 臍部皮下に集積亢進を呈する結節を認めた。
b: 臍体部に6cm大の不整な腫瘤性病変を認め SUV max 約7.0の異常集積を呈した。

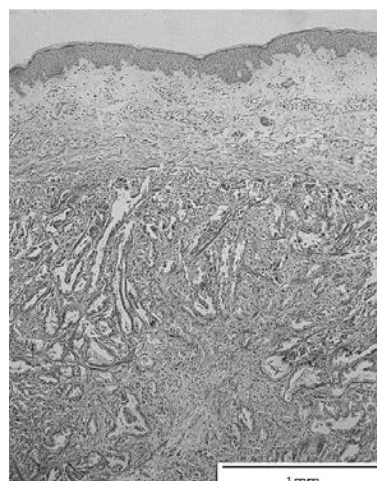


図3a 病理組織 (HE 染色, 20倍)

皮下組織から真皮にかけて腫瘍細胞が増殖し、腺腔構造の形成を認めた。

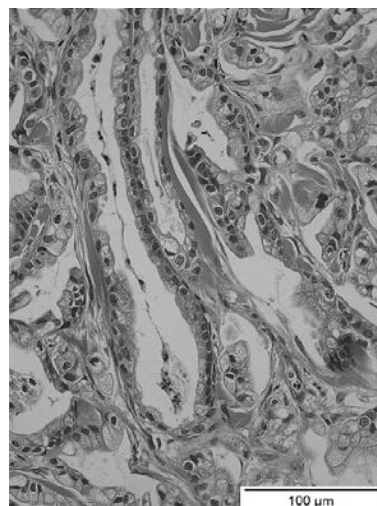


図3b 病理組織 (HE 染色, 20倍)

核縁不整で明瞭な核小体を有する中型核と、弱好酸性で粘液質な胞体を有する管状腺癌であった。浸潤性膵管癌の転移として矛盾しないと考えられた。

から約6カ月後に永眠した。

治療および経過

膵癌取り扱い規約によりT4N3M1c Stage IVbの臍体部癌の診断とし、臍部結節を臍体部癌の転移による Sister Mary Joseph's nodule と考えた。1カ月後に消化器内科へ入院後にゲムシタビンによる化学療法を2コース施行した。臍部結節は平坦化したが、全身状態増悪により化学療法は中断となり、皮疹出現

考 察

内臓悪性腫瘍の臍転移は Sister Mary Joseph's nodule (SMJN) と呼ばれ、Mayo clinic で勤務していた看護師 Sister Mary Joseph が臍の結節をともなう胃痛患者の予後が不良であったことに注目したことに由来する¹⁾²⁾。臍転移の大部分は内臓悪性腫瘍が進行してから認められ、一般的に臍転移が発見され

原発巣の部位

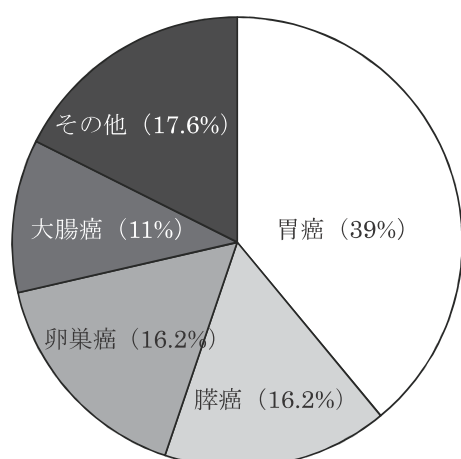


図4 SMJNの原発巣（八木らによる本邦154例のまとめ）

てからの予後は不良とされる。八木らによる本邦154例のSMJNの症例の検討では、その原発巣の内訳は胃が60例（39%）、膵臓・卵巣がそれぞれ25例（16.2%）、大腸17例（11%）と続く³⁾（図4）。転移経路としては、①血行性、②リンパ行性、③直接浸潤があげられる。③の中には腹膜播種、肝円索あるいは尿膜管索より膈への直接的伝達がある。膈は解剖学的に皮下脂肪と筋層が欠如しているため、腹膜転移から直接浸潤しやすいと考えられている⁴⁾。

表1¹³⁾⁻²⁹⁾には本邦における膵癌原発のSMJN症例について、医学中央雑誌を用い「膵癌」「膈転移」をキーワードにして検索した結果をまとめた（1983-2013年の間で会議録を除く）。自験例を含め30例の報告がみられ、このうち23例（77%）が女性で、25例（83%）が体尾部癌であり、SMJNを契機に発見されたのは25例（83%）であった（図5）。平均生存期間は6.3カ月であった。SMJNの原発として膵癌が比較的多く、中でも膵体尾部癌が多いのは、他の臓器に比べ臨床症状に乏しく、進行した状態で発見されることが多いためと考えられている⁴⁾。膵癌に対する化学療法はこれまでゲムシタビン、テガフルール・ギメラシル・オテラシルカリウムが保険適応となっており、予後については平原らがゲムシタビン投与で20カ月の生存を得たとする報告が最も良好な成績であった⁵⁾。SMJNは一般に予後不良とされているが症例により個人差があり、迅速に皮膚生検や全身検索を行い治療方針を立てる必要があると考える。自験例では皮膚生検やFDG-PET/CT検査

表1 本邦における膵癌原発のSMJN症例のまとめ（1983-2013年）

年度	著者	年齢	性別	部位	予後
2013	自験例	83	女	体部	6カ月
2013	児玉ら	73	女	頭体部	12カ月
2011	越田ら	77	女	体部	不明
2011	古川ら	75	女	体尾部	7カ月
2010	長瀬ら	70	女	頭部	8カ月
2010	平原ら	72	女	尾部	20カ月
2009	齋藤ら	61	女	体尾部	6カ月
2008	山下ら	68	男	体部	4カ月
2008	早見ら	84	女	尾部	3カ月
2007	浅井ら	79	女	体尾部	3カ月
2007	黒木ら	84	女	体尾部	11日
2006	八木ら	62	男	頭部	不明
2006	長門ら	73	女	体部	6カ月
2005	Tokai	60	女	体尾部	6カ月
2004	岡崎ら	75	男	体尾部	5カ月
2003	米田ら	60	女	体尾部	2カ月
2003	同上	53	女	体尾部	7カ月
2003	正宗ら	49	男	体尾部	6カ月
2001	向井ら	78	女	体部	3カ月
2001	間山ら	73	女	尾部	11カ月
2001	同上	58	女	不明	2カ月
2000	鎌田ら	75	女	頭体尾部	1カ月
1999	仲宋根ら	80	女	体尾部	不明
1998	高須ら	44	男	体尾部	不明
1996	大島ら	70	女	頭部	6カ月
1995	武下ら	66	男	尾部	不明
1995	丸太ら	62	女	体尾部	3カ月
1995	横井ら	71	女	体部	4カ月
1987	久本ら	76	女	尾部	8カ月
1987	野々垣ら	70	男	体尾部	14カ月

にて膵癌の診断に至り、SMJNの一典型例と考え報告した。

〈本論文の要旨は日本皮膚科学会第853回東京地方会において報告した。〉

著者の利益相反：本論文発表内容に関連して申告なし。

[文献]

- 1) Mayo WJ. Metastasis in cancer. Zproc Staff Meet MayoClin1928; 3:327.
- 2) Bailey H. Demonstrations of physical sign in clinical

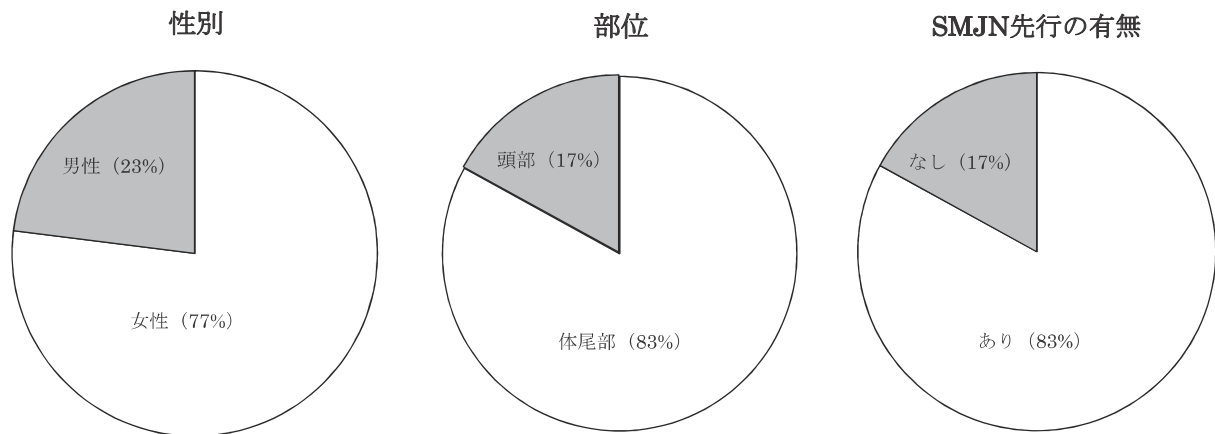


図5 膵癌原発の SMJN 症例

- surgery, 11th ed, The Williams and Wilkins Co., Baltimore, 1940, p227.
- 3) 八木宗彦, 野内伸浩. Sister Mary Joseph's Nodule の1例. 皮膚臨床2006; 48: 1725-7.
 - 4) 岡崎 誠, 平塚 正弘, 奥野 優. Sister Mary Joseph's nodule により発見された膵体尾部癌の1例. 胆と膵2004; 25(7): 451-3.
 - 5) 平原典幸, 西健, 川畑康成ほか. 塩酸ゲムシタピンが著効し20カ月の生存が得られた Sister Mary Joseph's Nodule を伴った膵尾部癌の1症例. 肝・胆・膵 2010; 60: 725-30.
 - 6) 米田有紀, 白鳥敬子, 田原純子ほか. Sister Mary Joseph's nodule を呈した膵癌の2例. 膵臓 2003; 18: 507-11.
 - 7) Tokai H, Matsuo S, Azuma T et al. Pancreatic Cancer with Umbilical Metastasis (Sister Mary Joseph's Nodule). Acta Med Nagasaki 2005; 50: 123-6.
 - 8) 古川健太, 辻江正徳, 宮本敦史ほか. 膵転移で発見された膵体部癌の1例. 日臨外会誌 2011; 72: 1256-60.
 - 9) 向井敦, 橋村伸二, 林英博ほか. Sister Mary Joseph's nodule の2例. 臨放 2001; 46: 844-7.
 - 10) 山下晋也, 左近賢人, 日浦祐一郎ほか. 放射線化学療法後の発生した膵体尾部癌の Sister Mary Joseph's Nodule (SMJN) の1切除例. 癌と化療 2008; 35: 2112-4.
 - 11) 早見守仁, 若井俊文, 金子和弘ほか. Sister Mary Joseph's nodule により発見された膵臓癌の1例. 新潟医学会誌 2008, 122: 148-52.
 - 12) 正宗克浩, 大田憲一, 藤川和也ほか. 転移性膵癌 (Sister Mary Joseph's nodule) の2例. 四国医誌 2003; 59: 153-8.
 - 13) 浅井かなこ, 平光裕子, 米田和史ほか. Sister Mary Joseph's nodule の1例. Skin Cancer 2007; 22: 136-9.
 - 14) 鎌田麻子, 飯田憲治: Sister Mary Joseph 結節の1例. 皮膚臨床2000; 42: 1406-7.
 - 15) 長瀬博次, 太田英夫, 村田幸平. 膵癌術後1年で膵転移を来した1例. 癌と化療 2010; 37: 2361-3.
 - 16) 長門昌代, 真鍋 求, 梅林芳弘. 膵癌による Sister Mary Joseph 結節の1例. 皮膚臨床 2006; 48: 479-80.
 - 17) 黒木のぞみ, 新田悠紀子, 小池文美香ほか. 【上皮系腫瘍】 Sister Mary Joseph's Nodule の1例. 皮膚臨床 2007; 49: 583-6.
 - 18) 斎藤健人, 佐藤直夫, 星野博之ほか. 膵結節 (Sister Mary Joseph's nodule) により発見された膵体尾部癌の1例. 神奈川医学会誌 2009; 36: 16-19.
 - 19) 間山真美子, 東野治仁. Sister Joseph's nodule の2例. 三沢病医誌 2001; 10: 35-7.
 - 20) 仲宗根啓樹, 大城 勝, 山城 剛ほか. 膵癌からの Sister Joseph's Nodule を呈した1例. 内科 1999; 84: 756.
 - 21) 高須 博, 矢口 厚, 坪井廣美ほか. Sister Mary Joseph's Nodule の1例. 皮膚臨床 1998; 40: 1684-5.
 - 22) 大島昭博, 松本博子, 井出瑛子ほか. 膵転移をきたした膵頭部扁平上皮癌の1例. 皮膚臨床 1998; 38: 905-8.
 - 23) 横井清. 皮膚疾患に続発する消化器病変 Sister Mary Joseph's nodule, 消内視鏡 1995; 7: 1638-9.
 - 24) 武下泰三, 西村正幸, 八島 豊. 転移性膵癌症例報告および本邦報告例の文献的考察. 西日皮 1995; 57: 27-30.

- 25) 丸田福門, 市川英幸, 窪田達也ほか. 消化器疾患に続発する皮膚病変 腭体尾部癌に伴った Sister Mary Joseph's nodule. 消内視鏡 1995 ; 7 : 1636-7.
- 26) 久本和夫, 西岡和恵, 太田貴久ほか. 腭癌の臍転移例 過去22年間の臍転移本邦報告例の検討. 臨皮 1987 ; 41 : 1097-102.
- 27) 野々垣涼子, 立花隆夫, 堀口祐治ほか. 腭癌臍転移の1例 経上皮性排除現象のみられた症例. 臨皮 1987 ; 41 : 901-5.
- 28) 兄玉 肇, 渡邊 学, 浅井浩司ほか. Sister Mary Joseph 結節を契機に発見された腭癌の1例. 日外科系連会誌 2013 ; 38 : 159-63.
- 29) 越田冨野, 兪 明寿, 黒川晃夫ほか. Sister Mary Joseph 結節の2例. 皮膚の科 2011 ; 10 : 224-7.